

藤島地域まちづくり未来事業一覧				R7.8.7 第1回藤島地域振興懇談会 資料1-2	
No.	事業名	R7 予算内示額 (千円)	R7事業内容	R6事業実績	事業評価
1. 未来に繋げる田園文化と多様な水田活用農業の振興					
①	藤島地域人と環境にやさしい農業推進事業 【産業建設課】	427	①有機農産物等首都圏交流推進→首都圏消費者との交流と販路拡大。 ②地産地消の推進→サンサン畑の会への補助。納入野菜の確保や不足野菜の試験栽培等の支援。 ③田んぼの生き物調査→藤島地域内の3小学校での田んぼの生き物調査の実施。	・首都圏交流人数:304人（練馬区光ヶ丘地区4小学校5年生） ・大学等交流者人数:56人（大東文化大38名、山形大農学部18名） ・田んぼの生き物調査参加者数:62人（藤島管内3小学校5年生） ・サンサン畑の会会員数:11個人・2団体 ・サンサン畑の会による給食食材納品品目数:15品目(3,034kg) ※R6.7月時点	 ・有機農産物や環境保全に関する啓発の対象としている小学生児童数については、首都圏及び藤島地域ともに減少傾向にあるが、今後も継続して環境にやさしい農業の重要性について学ぶ機会を確保していくことが必要である。 ・給食への地元産野菜の提供により食育と地産地消に貢献している。豪雨災害や気象による生産量の減少や時期によって提供可能な品目が少なくなるなど、安定的な供給が課題となっている。 ・地元大学や首都圏の大学等と交流をきっかけに、本地域のイベント等に参加する学生も多く、今後も人と環境にやさしい農業の啓発を推進していく。
②	藤島農産物元気事業 【産業建設課】	1,771	藤島農産物元気食楽部の活動支援を行う ①スマート農業、低コスト省力化農業技術等の実証。 ②研修会や講習会等の開催による情報交換及び技術支援。 ③土壌分析及び土づくりの徹底による高品質農産物の生産。 ④イベント等への出店。 ⑤地場農産物を活用した加工品開発。	・藤島農産物元気食楽部会員数:112名 ・研修会の開催回数:5回（延べ参加者数239人） ・実証展示園設置箇所数:7箇所 「高密度播種苗（蜜苗）移植栽培における側条施肥（可変施肥）による初期成育の確保」「大豆の摘心栽培による倒伏防止、安定栽培」「先進的除草機の活用による抑草」「水稻可変施肥による適正施肥」ほか ・土壌分析:9名(18点) ・ふじしま元気米の販売数量:つや姫8名 18t、はえぬき6名 26t ・ふじしま元気米ふるさと納税申込件数:48件 1,530kg	 ・研修テーマはスマート農業や高温対策など会員の希望に基づいて選定しており、内容について参考になったとの評価を得ている。参加者が固定している傾向があり、新たな参加者を取り込んでいくことが課題となっている。 ・実証展示のうち「高密度播種苗（蜜苗）移植栽培における側条施肥（可変施肥）」は課題であった初期成育の確保と初期成育AIによる栽培管理システムを取り入れたことで、より細かな圃場状況を把握できた。 ・藤島元気米の販売は地消地産に繋がったうえ、本年度のふるさと納税の注文量が昨年比で6倍となった。
③	庄内農業高等学校地域連携事業 【産業建設課】	1,000	実業高校としての特色ある取り組みや地元に着し地域を担う人材育成につながる取り組みを支援。地域連携協議会への補助。食文化創造都市の魅力体験、6次産業化支援、庄農うどん大作戦支援、福祉団体と連携した交流農園活動など	・庄農うどん大作戦参加店舗数:9店舗（食数1,695食） ・うどん部部員数:24人 ・NHKあさイチ（9月27日校舎から生中継）に出演 ・交流農園参加者数:65名	 ・庄農うどんの取組がNHKの全国放送「あさイチ」で校舎から生中継で放送された他、地元テレビ局、新聞社の報道により、同校と藤島地域のPRが図られた。 ・地域住民と高校生が連携する機会を創出しており、地域活性化のための貴重な事業となっている。 ・交流農園は参加者が減少していることから、対象者を見直していく。
④	藤島地域農の魅力拡大事業 【産業建設課】	2,394	①若手農業者美味しいごはんコンクール事業の開催。 ②関係の深い首都圏大学学生による鶴岡産米のPR活動の展開。	・鶴岡ごはん日本一 応募農家数:50人 ・鶴岡ごはん日本一 トークディスカッション参加者数:16名（うち応募者8名） ・鶴岡ごはん日本一 協賛企業等数:66社（協賛金総額151万円） ・大東文化大学生 米PR動画配信回数:7回（総再生回数10,468回） ※R7.2月時点	 ・鶴岡ごはん日本一は米の主産地としてのPR効果をさらに高めるため、応募農家数を増加させる取り組みが必要である。 ・トークディスカッションは情報交換と若手農業者の交流を深める貴重な場となった。 ・鶴岡ごはん日本一の開催経費は、将来的に市補助金によらない体系を目指して段階的に移行していくことが必要である。
⑤	藤島地域里山整備活性化事業 【産業建設課】	100	歴史ある添川地区の里山である東部山麓の自然資源や文化資源を活用した活動を強化するため、歴史探訪散策路等の整備を実施する。また、里山資源を利用した森林学習などの地域活動を行う。 ➢地元が行う散策路、四阿・根子杉周辺整備への原材料等の支給。	・敷砂利参加者数:10人 ・森林学習参加者数:15人	 ・四阿と根子杉を結ぶ連絡道等の環境整備や森林学習が行われている。こうした自然資源や文化資源の利活用を促進し、地域の活性化につなげる機会となった。
計		5,692			
2. 歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進					
⑥	藤島歴史公園「Hisu花」魅力発信事業 【総務企画課】	3,819	ふじ棚のライトアップやオフシーズンのふじ棚などへのイルミネーションを設置し、交流人口の拡大と地域の賑わい創出を図る。 ➢イルミネーション設置（委託事業）、イルミネーションの更新、電気資材購入	・イルミネーション来場者数:28,500人（過去最高） ・点灯開始イベントHisu花deないと来場者数::6,500人（過去最高） ・イルミネーション球数:15万球（庄内一の規模） ※期間中、庄農イルミ点灯の他、東田川文化記念館プロジェクションマッピング、芋煮deないと（観光協会主催）などのイベントも開催	 ・球数の規模は同程度だが、ワークショップメンバーのアイデアと工夫により、ネオンイルミネーションなどの新たな撮影スポットも人気を集め、期間中來場者は過去最高を記録した。 ・地域連携の取り組みとして、藤島中学校ボランティアサークルBen's!による看板制作、庄内農業高等学校生徒による庄農イルミ等を実施し、地元の子どものふるさと意識の醸成を推進し、地域の活性化が図られた。 ・期間中のイベントにより、隣接する東田川文化記念館との連携も図られた。
⑦	藤島歴史公園「Hisu花」から始まる地域づくり事業 【総務企画課】	300	歴史公園を交流拠点とするためのワークショップの開催とイルミネーションイベントの実施 ➢H30から活動しているHisu花ワークショップが主体となり実施するイルミネーションイベントへの支援を行う。	・ワークショップ実施回数:会議5回、作業2回、イベント運営1回 ・協賛企業数:72社（協賛金80万円） ・SNS配信:シーズン中55回（延べ353回） ・インスタフォロワー数2,430（前年より285増加）	 ・市民有志のワークショップメンバー27名＋大東大メンバー5名が地域を盛り上げるために主体的に活動を行っている。 ・特にHisu花deないとの運営資金不足を補うため、メンバーが協賛募集を行うようになり、年々協賛企業数も増加（前年より5社、13万円増加）するなど、地域の盛り上がりと一体感が醸成されている。
⑧	東田川文化記念館利活用事業(拡充) 【総務企画課】	530	「東田川文化記念館利活用計画」に基づき、歴史的価値の理解を深める講座の開催や館内の整備を行い地域住民の文化意識の向上、利用の促進を図る。 ①ふじしま歴史文化講座の開催。 ②利活用懇談会の開催。 ③利活用のための施設整備（Wi-Fi環境整備、旧郡会議事堂トイレ洋式化工事、展示室サインスタンド購入）。 →社会教育課予算で対応 ④郷土研究サークルへの支援	・ふじしま歴史文化講座全3回開催 参加者延べ人数 96名 ・東田川文化記念館利活用懇談会の開催(年1回) 参集範囲:利活用計画策定委員8名 ・郷土研究サークル支援 サークル研修費の支援	 ・ふじしま歴史公園Hisu花のイベントや観光協会主催ふじの花まつりとの連携により当施設を有効活用したことで来場者へのPRが図られた。また事業の実施については指定管理者と情報交換を密に行うことにより連携強化につながった。 ・ふじしま歴史文化講座の開催により市民の文化財の理解と保護意識の向上につながる機会となったので今後も引き続きアンケート等の意見を反映しながら有意義な講座を企画していく。
⑨	藤島地域花咲かせ活動支援事業 【総務企画課】	393	藤島歴史公園等の藤棚や花壇の管理ボランティア支援 ①藤棚管理技術指導業務委託。 ②藤棚育成・管理団体の育成支援。 ③藤管理エキスパート養成支援。 ④花咲かせ隊と庄内農業高等学校の花苗定植活動支援	・はままつフラワーパーク理事長の塚本こなみ氏より藤棚技術指導を受けた。（年間2回） ・藤友会18人（前年度17名）による藤棚管理実施。（年間11回） ・藤友会5名が塚本氏のもとへ研修に赴いた。（3年間実施の2年目） ・花咲かせ隊の隊員15名（3町内会有志、商工会女性部藤島支部）が庄内農業高校の花苗を使い定植活動を実施し、6月から9月の期間、除草や水やり作業も担当。	 （藤友会） ・樹木医である塚本氏の指導に従い年間計画を作成し、適切に藤棚の管理を行ったことで、藤の生育が向上し、枝が大幅に伸び、花房も長くなり見ごたえのある藤棚に仕上がっている。 ・実地研修で塚本氏から新規会員が直接指導を受けたことで技術が向上した。実地研修を受けた会員が増えたことで、より丁寧に管理できるようになった。（花咲かせ隊） ・地域一体となった活動により公園が彩られ、魅力アップにつながった。

No.	事業名	R7 予算内示額 (千円)	R7事業内容	R6事業実績		事業評価
⑩	藤棚の整備事業 【総務企画課】	3,960	ふじのまちにふさわしい環境整備として、藤島体育館周辺の老朽化した藤棚の修繕を令和元年度から年次毎に実施 ➢ 令和7年度は藤棚21.6m(6スパン)の修繕を実施する。	・6スパン(21.60m)の修繕を実施(藤棚の木製柱・梁等を金属製に更新した) ・全73スパン262.8m)のうち、32.8スパン117.95m)、44. 9%を完了		・藤棚を支える柱・梁等の老朽化による破損や利用者・通行人への倒壊・落下の危険を解消し、施設の安全と長寿命化とが図られた。
⑪	ふじの里づくり事業 【総務企画課】	126	町内会案内掲示板の塗装修繕事業。 ➢ ふじのまちにふさわしい環境整備。全町内会分を計画的に修繕(3町内会分を実施)	・町内会案内掲示板3か所の塗装修繕を実施した。		藤島地域の特徴を表した町内会案内板の施設を未来に残すため計画的な維持修繕を実施したことにより、特徴を活かした地域づくりを行うとともに地域の一体感の醸成を図ることができた。
⑫	鶴岡伝統芸能祭開催事業 【産業建設課】	790	鶴岡各地の伝統芸団体を招致しての伝統芸能祭の開催。 ➢ 伝統芸能祭を主催する夏まつり実行委員会への補助。	・参加団体数:10団体 東栄小学校獅子踊り・渡前小学校子ども獅子・藤島こりす保育園獅子踊り・鶴岡市消防団藤島方面隊 梯子乗り、纏振り・藤島児童館和太鼓教室 稲魂太鼓・ふじしま太鼓「鼓粋」・古郡神楽・両所神社御獅子舞 山王日枝神社獅子舞社中・温海嶽熊野神社獅子舞		・参加団体のやりがいに繋がっており、地域の伝統芸能として保存継承していくための重要な事業となっている。 ・猛暑対策の観点から屋内で開催したことにより、熱中症による出演中止等がなく参加していただいた。
⑬	ふじのまちかど整備事業 【産業建設課】	3,500	道路の老朽化藤棚の整備事業。全25基の木製藤棚をメッキ鋼製に交換していく➢R7は3期分として5基の交換を行う。	・修繕数:5基		・計画に基づき年次的に修繕を行う。
⑭	藤島地域観光拠点魅力アップ事業 【産業建設課】	2,067	藤島歴史公園の「ふじ」、国指定史跡に指定された「旧東田川郡役所及び郡会議事堂」を観光拠点とし、市民を巻き込んだ地域で魅力アップを発信する。 ①ふじしま観光協会ホームページリニューアル ②藤の管理講習会の開催 ③藤島地域観光ガイド ④モデルコース作成をするためのガイド育成事業 ⑤藤島歴史公園看板設置等整備	・藤島地域観光パンフレット、観光マップの作成。 ・観光PRグッズの作成、販売(観光名刺・トートバッグ)。 ・通年での「藤の管理講習会」開催。 ・「ふじしま観光ガイドの会」会議、研修会開催。		・国指定史跡に指定された東田川郡役所及び郡会議事堂と地域の花「ふじ」が咲き誇る藤島歴史公園を一体的に観光拠点としてPRし、ふじの花まつりでは「藤の花管理講習会」を開催するなどして来場者増加に繋がった。
⑮	藤島歴史公園案内表示板整備事業 【産業建設課】	0	藤島歴史公園看板設置等業務委託を藤島地域観光拠点魅力アップ事業へ付け替え。	歴史公園内に公園から東田川文化記念館への案内、駐車場(東田川文化記念館側)から公園への施設を案内する表示板と駐車場を案内する表示板を計4基を設置した。また公園内トイレ建屋東側にも男子・女子・身障者用の表示板を3枚を設置した。		・案内板を設置したことにより、隣接する東田川文化記念館と一体的な観光拠点化に繋がった。歴史公園内の移動が容易になり、東田川文化記念館の来訪者も含め、利便性が向上した。
	計	15,485				
3. しやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築						
⑯	長沼・八栄島地区地域公共交通導入事業 【総務企画課】	0	令和7年度は、藤島北部地域公共交通運営協議会と藤島南部地域公共交通運営協議会が新たに設立され、道路運送法第4条に基づく本格運行となるため、市一般財源(地域振興課予算)からの補助金支出となる。	(すまいる号の運行状況)※1月末現在 ・年間利用回数:325回 ・会員登録者数:346名 ・乗合人数:1.1人/台 ・実利用者数:22人 ・経費等:委託料1,773,790円、運賃収入95,550円、一人あたり単価6,358円		・年間利用回数1,000回、乗合人数2.0人を目標としていたが、いずれも目標を下回り低調な利用となった。 ・一人あたり単価は2,500円以下に設定しているが大きく上回ってしまった。 ・一方で会員と会員登録者数は徐々に増えており、令和7年度からの再編に向けてす野は広がっていることが伺える。
⑰	藤島地域公共交通再編事業 【総務企画課】	0	同上	・7月に町内会長を中心に学習会を開催し、地域公共交通の理解を深めた。その後、次年度からの運行内容について地域公共交通検討委員会を立ち上げ、住民レベルでの検討を行うとともに、12月には藤島地域を北と南に分け、2つの運営協議会を設立した。現在、4月1日からの運行に間に合うように運輸局への申請を行い、3月中の許可取得を目指している。		・令和6年度末をもって清川線の廃線が決定したことにより、令和6年度中に藤島地域全域の交通再編をまとめる必要があったが、運行内容も決まり、4月1日からの運行開始に向け順調に推移している。 ・再編後の運行主体となる藤島北部地域公共交通運営協議会(長沼・八栄島・藤島北部地区)及び藤島南部地域公共交通運営協議会(東栄・渡前・藤島南部地区)が設立され、運営主体が確立された。
⑱	藤島文厚エリア等検討事業 【総務企画課】	588	藤島文厚エリア内の土地利用・施設の再配置の検討のほか、統廃合となる東栄小学校・渡前小学校の利活用等についても対象に加え、藤島地域の将来像を描く。 ➢ エリア内の文教・厚生施設の再整備及び土地利用について、地域振興懇談会やワークショップ形式での地域の意見を踏まえ「文厚エリア等将来構想」を策定する。	・施設の所管課、関係部署による内部検討会議の開催(1回) ・先進地視察の実施:複合化施設2例 ① 埼玉県富士見市:小学校、図書館分館、放課後児童クラブ ② 東京都北区:中学校、図書館分館、子ども・ティーンズセンター (・藤島地域小中学校整備検討委員会の開催(3回):施設一体型の小中一貫校(義務教育学校)を整備することで意見集約された)		・庁内内部検討会議では、各施設の現状把握や課題分析等にとどまった。 ・先進地視察では、学校との複合施設(図書館分館、学童等)の事例を見学し、メリット(イベント)の相互協力効果、児童生徒の施設利用増など)や課題点(学校と他施設の管理区分、学校-施設管理者間の連携の重要性など)について理解を深めた。
⑲	長沼温泉ぽっぽの湯活性化事業 【市民福祉課】	730	健康福祉施設としてすべての年代から利用してもらえる温泉を目指すため、特にフレイル予防事業で対象とならなかった子育て世代の親や家族に向けた取り組みを行う。 ① 託児入浴の拡充。 ② 子育て講演、育児相談の実施、授乳コーナー設置 ③ 若者家族向けイベントの開催。	・子育て世代への支援として、入浴託児を毎月1回開催した。 ・ベビーマッサージ、親子リトミック、親子ヨガ、親子で楽しむ音楽会を開催し、育児支援の強化を図った。 ・新規利用者増加を狙い、若者・家族向けに健康美容セミナーを開催した。 ・入浴者数:155,543人(R7年1月までの10か月実績) ・入浴収入:50,677千円(")		・R6年度入浴者数は、前年度10か月実績入浴者数157,373人から約11%増加した。 ・入浴託児では、子育て中の保護者のストレス軽減と育児相談を行う機会を提供できた。 ・各種事業実施により、新たな利用者の拡大が図られた。
	計	1,318				
未来事業合計額		22,495				